

バラエティに富んだドライバーが集う、激戦クラスのParilla X30。第1戦は12歳の田中風輝選手が勝利を掴んだ。



田中風輝がParilla X30クラスでデビューウィン!

春の気配が漂い始めた2月最後の週末に、2019鈴鹿選手権シリーズ KART RACE IN SUZUKAの開幕戦が、鈴鹿サーキット国際南コースで開催された。今回行われる7つのクラスのエントリー総数は、実に195台。決勝日は9つの計時セッション

と18ヒートのレースが次々と行われるという、忙しくも賑やかな1日となった。

Parilla X30クラスは、予選ヒートで波乱が相次いだ。まず、デビュー戦ながら計時予選でトップタイムをマークした田中風輝選手が、ローリング中にスピンを喫した。さらに最終ラッ

プには、トップ走行中の平安山良馬選手がエンジントラブルに見舞われストップし、2番手にいた酒井仁選手もアクシデントでほぼ最後尾となってしまった。代わって先頭に立ったのは津野熊凌大選手で、決勝のボールを獲得した。2番手は金本さきい選手。田中選手はスタート前のハプニングをリカバーして3番手につけた。

16週の決勝では、田中選手が5周目にトップへ浮上し、やがて背後に2～3車身のギャップを開く展開。しかし、レースが終盤に入ると津野熊凌選手が田中選手のテールをキャッチ。5番グリッドから浮上の門田翔成選手もここに追い

Parilla X30クラス / 1.2位は予選5番手スタートから追い上げた門田翔成選手。2.津野熊凌大選手は最後の最後で抜かれてしまったが3位入賞。3.4位の金本さきい選手。4.居附明利選手は5位。5.6位の平安山良馬選手。6.入賞の皆さん。





Junior MAXクラス / 7.山口大耀選手は4位。8.5位の濱地陽夏人選手。9.黒川史哉選手は6位。10.入賞の皆さん。11.優勝は昨年チャンピオンの荒尾創大選手。12.洞地遼大選手は最後でポジションを上げて2位。13.3位入賞は堂園篤選手。



Senior MAXクラス / 14.玉橋陸斗選手はレース中盤にトップを奪還して優勝。15.2位は中回から抜け出した大宮賢人選手。16.東郷哲斉選手が予選3番手スタートで3位。17.4位の富田蓮選手。18.奥田もも選手が5位。19.6位の佐藤樹選手。20.入賞の皆さん。

付き、3台一丸の優勝争いとなった。

迎えた最終ラップ、3コーナーで門田選手が津野熊選手の前へ。田中選手は背後からのプレッシャーに耐え抜き、真っ先にチェッカーをくぐることに成功した。デビューウィンを飾った最年少12歳の田中選手は「ゴールした時はほっとしました。今年は全戦表彰台に乗ってチャンピオンを獲りたいです」と会心の笑顔だ。

2位の門田選手と3位の津野熊選手は0.33秒差のフィニッシュ。4・5位の金本選手と居附明利選手に続いて、平安山選手が15台抜きで6位フィニッシュを果たした。

Senior MAXクラスの決勝では、ポールから先頭を行く奥田もも選手に2番グリッドの玉橋陸斗選手が迫り、レース中盤にトップが交代

した。さらに玉橋選手は背後の2番手争いに乗じて大きなリードを築いて、デビュー戦を独走勝利で飾った。

昨年はJunior MAXクラスでシリーズ12位に留まった玉橋選手。「以前はレース展開の波にうまく乗れていなかったけれど、今年は落ち着いて走れるようになったし、メカニックの方たちにも自分の状況をうまく伝えられるようになったのがレース結果に繋がったと思います」と飛躍の秘訣を語ってくれた。

2位は大宮賢人選手。予選ヒートでの不運なペナルティを克服し、10番グリッドから胸のすくオーバーテイクショーを演じてみせた。2人の14歳に続いて3位表彰台に乗ったのは、24歳の東郷哲斉選手だった。

Junior MAXクラスでは、2018シリーズ王者の荒尾創大選手が、ポールからのスタートの出遅れを挽回して、独走で勝利を遂げた。2位はフィニッシュ間際に順位を上げた洞地遼大選手。3番手でゴールの黒川史哉選手はスタート違反の裁定を受け、堂園篤選手が3位となった。



国際南コースに沿うように並んだバックテントの数々。注目されたシリーズということがうかがえる。